

2025年（令和7年）度事業の基本方針

基本財産の変更により、事業活動費・財団運営費の新しい財源確保のための資産運用もいまだ2年目であり、事業規模、施策展開の拡大は目指さず、2024年度と同レベルで事業・運営を組み立てる。一方、世の中の変化は、AIをはじめデジタル技術の進化、多様性の尊重等の社会的価値観の変化、国際情勢の不安定化等の地政学的な変動など、多面的かつ急速に起こっている現状がある。財団としてもこれらを鑑みつつ、向こう3年から5年、特に2026年度（令和8年）の設立40周年からの拡充・新規展開を視野に入れ、事業活動の中長期的な組み立て、持続可能な事業活動を展開する運営基盤を設計・整備していく。

資産運用に関しては、従来規模の収益確保を前提にするも、今後、物価や人件費等の高騰加速化により事業活動費や運営費の増加が予想されるため、収益拡大の可能性を探る。

更に、新しい公益法人制度への対応も確実に進めていく。

（1） 基本の方針

- ・ 従来以上の収益見込みが立つまでは、これまでの収益規模での事業・運営を組み立てる。予算増を伴う事業活動の拡充や新規事業へのトライアルは慎重にし、従来活動の深化や整備に重きを置いた展開とする。
- ・ 事業活動においては、まずは中期的（目安3年程度）な視野で、2026年度の設立40周年からの拡充や新たな展開を想定して組み立てる。
- ・ 2024年度から進めている、岡山の地におけるこれからの「福武らしい」財団活動について、更に検討し、言語化するとともに共有・周知していく。
- ・ 資産運用収益への変更2年目に、初年度運用益の経理処理業務が複雑化、負荷増になった部分を整理し、安定した財団運営実施のため資産運用処理業務をシンプル化する。

（2） 表彰事業

- ・ 福武教育文化賞の価値を更に高めるべく「福武らしい」顕彰を可能とするため、多くの魅力的な活動者・団体候補から選考できるよう、情報収集及び広報活動を強化する。
- ・ 受賞者による地域貢献・活性化活動をサポートすべく、「受賞者フォロー助成」の活用を受賞者に寄り添い促進していく。

（3） 助成事業

- ・ ローカル財団である長所を更に伸ばすべく、助成先とのコミュニケーションを質量ともに深化させる。資金面での支援のみならず、助成先に寄り添う財団としての関係性を築く。
- ・ 助成事業の事務处理的業務の委託・外注化を図り、運営面整備や助成先支援深化を推進し、助成先活動のレベルアップをサポートする。
- ・ 検討課題の学校園に対しての（探究学習等）助成の在り方を研究し、次年度応募要項への反映を目指す。

（4） その他

- ・ 40周年記念事業の構想を立案し、準備を推進する。
- ・ 将来的な収益増を前提として、組織体制、事業活動規模、新規展開、運用等について検討する。
- ・ 事業活動の深化に伴い、職員の残業時間が著しく増加している現状を解決すべく、業務の外注や業務委託の推進と従来業務の効率化・合理化を図るとともに、要員増について検討する。
- ・ 公益法人制度の変更により、より自由な資金活用が認められることから、中期的収支均衡（黒字は5年間での解消・過去赤字と通算可）や、使途不特定財産規制、「予備財産」保有などの制度を活用し、より充実かつ持続可能な財団活動を推進する基盤をつくる。
- ・ 併せて公益法人会計基準の見直しが行われたことに対する対応（当財団では2025年事業年度より適用、2028年度までは従来基準適用可）を検討し、準備を進める。

2025年(令和7年)度の事業計画

公益目的事業Ⅰ 教育文化活動支援事業 (定款第4条1項第1号)

(単位：千円)

予算総額 162,540 (2024年度当初 150,270 今回補正後 149,420 ※共通経費を含む)

1 表彰事業 予算総額 5,090 (2024年度当初 4,540 今回補正後 2,998)

福武教育文化賞の目的とこれまでの実績を積極的に発信するとともに、推薦者との関係性を深め、推薦件数の増加を目指す。2024年度から実施してきた選考方法に関する検討会での内容を反映し、従来の選考基準のうち特に重視すべき項目を明確化することで福武教育文化賞の目的にふさわしい受賞者を選考する。

贈賞式は、2024年度同様単独開催とし、各受賞者から活動内容と今後についての発表機会を設定する。

福武教育文化賞

- 《目的》 岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人や団体を奨励するために賞を贈り、教育文化の振興による魅力的で豊かな人づくり地域づくりに貢献する。
- 《対象》 岡山県内に在住又は岡山県に関わりのある者に贈るものとし、岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人又は団体を対象とする。
- 《推薦》 岡山県教育委員会、市町村教育委員会等教育関係団体、報道機関等からの推薦
- 《賞》 表彰状、賞牌及び副賞(30万円)賞は3~5件程度
- 《選考》 選考委員会で選考し、理事現在数の2分の1以上の同意を得て理事長が決定
- 《予定》 4月告知、4月下旬~6月末推薦受付、8月上旬選考委員会、10月25日贈賞式予定

2 助成事業 予算総額 68,494 (2024年度当初 63,850 今回補正後 63,388)

教育文化活動助成は教育及び文化の視点から地域振興を図る活動全般に助成する。公募・特定・受賞者フォロー助成のいずれにおいても、助成先との丁寧なコミュニケーションを図り、資金面支援に加え、寄り添う助成事業を追求していく。その一環として、事前に助成事業の年間の流れやルールを理解していただくオリエンテーション(事前説明会)を今年度も助成事業ごとに実施する。

成果報告会は、オンライン形式と、対面形式の2形式で実施する。助成団体、審査委員等、相互に交流する機会も設ける。

特定助成は従来通り、①先進的事業助成、②グローバル化事業助成、③瀬戸内文化育成助成の3分類とする。2026年度特定助成実施に向けて、方針・目的等、振り返りを基に、整理・検討した上で、枠組み(分類)及び選考プロセスや審査委員会への報告方法等について、検討を続ける。

(1) 教育文化活動助成（公募助成）

予算額 35,750（2024年度当初 35,080 今回補正後 34,878）

《目的》

教育及び文化の視点から地域振興を図る活動による人づくり、地域づくりを応援し、地域が活性化することを期待して、教育文化に関する有意義な実践活動等に助成する。

《活動》

教育及び文化を手段に用いて、岡山県内で実施される地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図る活動を対象とし、申請区分は以下の4類型とする。

- 1 地域社会（コミュニティ）の活性化のために取り組む活動
- 2 次世代育成に取り組む活動
- 3 教育の質の向上や普及に取り組む活動
- 4 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

《助成額》 原則1件当たりの上限は30万円

《期間》 2025年（令和7年）度中に実施する事業

《審査》 審査委員会（4部会16名）で審査し、理事現在数の2分の1以上の同意を得て決定

《予定》 12～1月申請受付、3月審査委員会、4月事業開始、9月成果報告会

- ・ 運用面においては、新規助成先が増加している状況も踏まえ、活動内容変更時ルール、助成金使途ルールの周知を図るとともに、成果報告書・会計報告等を精査し公平性を担保する。
- ・ 助成先活動に可能な限り参加し、コミュニケーションを強化するとともに関係性構築に努める。

(2) 福武教育文化賞受賞者フォロー助成

助成予算額 3,900（2024年度当初 4,500 今回補正後 3,900）

※助成事業予算総額の内、福武教育文化賞受賞者フォロー助成の助成金として支出する予算額

《目的》

福武教育文化賞の受賞者に対して、受賞後も継続して質の向上と人づくり・地域づくりの活動を行うことを促すため、受賞後3か年30万円を限度として申請に基づき助成する。2022～2024年度受賞者数13件を見込む。

- ・ 申請前には必ず事前相談を行い、フォロー助成の目的や趣旨の周知をはかり、申請がスムーズにできるよう案内する。また、申請活動視察やフォローアップ等により活動を丁寧にサポートする。
- ・ 広報活動の一環として、受賞者のフォロー助成を活用した地域活性化の取り組みを具体的な成果とともに積極的に発信していく。

(3) 特定の特色ある活動に対する助成（特定助成）

助成予算額 26,560（2024年度当初 22,580 今回補正後 22,390）

※助成事業予算総額の内、特定助成の助成金として支出する予算額

《目的》

教育文化活動支援のうちで、公益性が明確で、継続的に支援しなければ効果的でないものに次の3分類に分けて助成する。

- ・ 特定助成の趣旨の周知を徹底するとともに、公募助成先と同様にコミュニケーションの強化を図り、活動視察を積極的に実施する。助成先によっては、自立に向けてのシナリオ設計を促すとともにその支援を行う。
- ・ 2026年度時に運用開始できるように特定助成の枠組み、採択方針等について再検討する。

① 先進的事業助成 助成予算額 24,100 (2024年度当初 21,380 今回補正後 21,190)

※特定助成の助成金予算の内、先進的事業助成の助成金として支出する予算額

新たな教育文化的価値の創造に寄与する先進的かつ実践的な活動を行う団体等に対して助成する。

助成事業名	団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容	
① 先進的事業助成	推進する活動 高校・大学等と地域の連携・協働を	国吉康雄記念美術教育研究と地域創成講座	才士 真司	1050万円	国吉康雄記念研究寄付講座の研究及び顕彰活動	申請者が所属する岡山大学では、地域社会から、高い創造性や批判的思考、コミュニケーション能力を求められている。この養成のため、国吉康雄を中心とした地域の文化芸術資源に研究・顕彰活動を通して、学生主体の地域連携事業としてプロデュースすることで、地域社会に文化資源を用いた新たな創造的価値を示すことを目的とする。
		Wellness & Artistic Okayama (略称:WellArt, Okayama)	小比賀 美香子	30万円	人間味のある医療へ繋がることを目的としたアートワークショップ	医療者を対象としたアートワークショップの実践を通じて、より温かみと人間味のある医療へ繋がることを目的とする。
		がくまび	松本 竜己	30万円	GAKUMABI(MMP)中学生による地域活動(2年目)	GAKUMABI MMP の活動により中学生が自発的に自ら考えて地域活動に関わること、それにより地域活動やコミュニティが活性化することに繋げていくことを目的とする。 2年目の活動目標 ①活動実績を重ねる②他地域でも利用可能性のある探求活動テンプレートを検討する③中学生探求活動を文化にするための模索する
	多様な芸術文化鑑賞支援	霧のサロン実行委員会	廣岡 辰哉	120万円	日本美術を新たな視点から——霧(よい)のサロン	自身の目と感性で作品と相対することを提案し、日本美術に対する先入観や固定概念を排することが大きな目的とし、事前予約制・入場無料イベントである霧のサロンを実施する。そこでの発見を通じて、日々の暮らしにより多くの楽しみや喜びを感じるような内容を構成する。
		一般社団法人クニヨシパートナーズ	伊藤 駿	50万円	国吉祭 2025 CARAVAN と関連イベント	2024年に円城寺(吉備中央町)で開催した国吉祭や、2023年に茨城県近代美術館で開催した国吉康雄展でのワークショップのノウハウを生かし、国吉祭 2025 CARAVAN と関連イベントを開催する。岡山県内の施設等で、岡山大学国吉康雄研究講座の受講生と国吉祭と関連イベントを行い、岡山県民に国吉康雄という地域文化資源とその社会的評価を発信していく。
		「岡山美術」活性化実行委員会	直原 秀次	200万円	「岡山美術」活性化事業	郷土ゆかりの優れた作家を顕彰し、その業績を広く一般に知らしめ、地域に愛着を持ち、自ら主体的に活動しようとする若者を育てることを目的とし、特別展示を実施する。また、郷土ゆかりのアーティストに活動の場を提供し、美術や文化を愛好するファンを増やして、心豊かな地域社会を築くため、アーティストとのコラボ事業や普及事業を行っていく。
		「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会	伊原木 隆太	30万円	アート鑑賞プログラム	学校と連携し、子どもたちに本物のアートに触れる機会を提供するとともに、対話型鑑賞の手法を取り入れた案内を行うことにより鑑賞の効果を高め、次世代を担う人材を育成することをアート鑑賞プログラムを実施する。また、案内を行う人材を地元から募ることにより、地域のアート人材の交流を促進し、地域の文化教育力を高める。
		特定非営利活動法人アートファーム	大森 誠一	120万円	旭川河畔における拠点形成と地域再生のプロジェクト	岡山河畔芸術祭は2023年・24年と続けて800~900人の来場者があったが、その賑わいは年一度に限られている。通年で出合いや交流の生まれる環境づくりをめざし開設した旭坐を拠点に、点のイベントを線のムーブメントに延伸し、さらに面のコミュニティへと拡大していくことを目的とし、岡山河畔芸術祭 2025 や旭坐・パーマナント事業を実施する。

助成事業名	団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容	
① 先進的 事業助成	その他	公益社団法人岡山県文化連盟	若林 昭吾	150 万円	文化芸術人材バンクを活用した学校出前講座	①文化芸術の優れた指導者を公立小中学校(支援学校を含む)の正規授業に派遣し、子どもたちに「本物の文化・芸術体験」の機会を提供する。 ②地域の文化芸術人材が、自らの作品制作や表現活動の発表ではなく、専門的な知識や技術を提供することにより地域社会に貢献し、文化芸術の社会的価値を可視化する。
		いのちのおはなし岡山	宇野 香織	30 万円	こどもたちの未来のために「いきるちから」を伝える授業	子どもたちのもつ「いきるちから」とは、生まれること・育つことがどんなに素晴らしいことであるかを子ども達に伝えることを目的としている。実施プログラムでは、いのちが生まれ(産科)成長する(小児科)診療科で勤務する現役の医療者である医師・助産師・看護師が講師となり、子どもたちを対象に「いのちのおはなし」講座を開催する。

※ 上記のほか、先進的的事业助成として次の助成を行う。

- ・ ハロー！ミュージアム助成[公募：小学校 20 校程度] (約 400 万円)
- ・ 高校生・大学生アクション助成[公募：10 件程度] (約 200 万円)

② グローバル化事業助成

助成予算額 900 (2024 年度当初 600 今回補正後 600)

※特定助成の助成金予算の内、グローバル化事業助成の助成金として支出する予算額

多文化共生のネットワーク作りを進める事業へ助成する。

助成事業名	団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容
② グローバル化 事業助成	INE 居場所づくりネットワーク	片山 浩子	60 万円	外国にルーツのある子ども・保護者の就学支援を通じた多文化共生	就学前に必要な情報をわかりやすく伝える「手引書」を作成し子どもの就学に不安を持つ在留外国人保護者への支援を図る。また当事者の在留外国人と内容をブラッシュアップをして多言語に翻訳。「手引書」を在留外国人と日本人と一緒に検討を重ねる機会を作り、地域・社会に多文化共生の視点を養っていくことを目的とする。
	岡山県日中教育交流協議会	鍵本 芳明	30 万円	中国との継続的な教育交流による青少年の国際理解教育の推進	中国の青少年との友好交流を通じて、日本とアジアの平和と繁栄に貢献する青少年の育成を図るため、訪日団交流会当を実施する。

③ 瀬戸内文化育成助成

助成予算額 1,560 (2024 年度当初 600 今回補正後 600)

※特定助成の助成金予算の内、瀬戸内文化育成助成の助成金として支出する予算額

瀬戸内文化の育成、創出のために必要なプロジェクトに対して助成する。

助成事業名	団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容
③ 瀬戸内文化 育成助成	SANNAN 犬島プロジェクトチーム	東森 貢	30 万円	地域を愛し地域から愛される子どもを育てる山南ふるさと学習	小学生から学区に出かけ、豊かなふるさとについて調査し、持続可能なまちづくりについて考え発信する地域貢献活動を実施することで、地域を愛し、地域に愛される子どもを育てる。
	一般社団法人犬島とと倶楽部	岩井 智幸	66 万円	犬島と繋がる「ワークショップ」と「手入れのルー」の実施	新たな交流人口を作るため犬島ならではの収穫体験や食育をテーマにしたワークショップを実施する。また、交流人口から関係人口へ転換するために、島の理解をより深めて犬島を自分ごとと考えてもらおう場となるよう、犬島の環境保全を目的とした参加型体験プログラムを実施する。

助成事業名	団体名称	代表者名	申請金額	申請活動名	申請活動内容
② 瀬戸内文化育成助成	定非営利活動法人 公共の交通ラクダ	岡 将男	30 万円	備讃瀬戸アクセス マップ	今後のインバウンドの拡大には公共交通の存在は不可欠であり、小豆島のように瀬戸芸観光が路線存続の契機になった事例もある。瀬戸芸を訪れる方々に、できる限り公共交通を利用して自由に回遊し、非日常空間を楽しんで貰うツールとして備讃瀬戸アクセスマップを作成する。
	瀬戸内国際芸術祭 たまの☆おもてなし 推進委員会	柴田 義朗	30 万円	瀬戸内国際芸術 祭 2025 宇野港 エリアオープニ ング記念イベント	瀬戸内国際芸術祭 2025 の開催に伴い、国内外から宇野港へ多くの観光客が訪れる。この機会に、地域の魅力や伝統文化を広くアピールし、地域内においても交流促進により地域のつながりをより活性化するためオープニング記念イベントを実施する。

(4) 公募助成に準じる緊急を要する等の助成

助成予算額 800 (2024 年度当初 800 今回補正後 800)

※助成事業予算総額の内、公募助成に準じる緊急を要する等の助成の助成金として支出する予算額
年度途中で申し出のある緊急を要する教育文化活動に対して助成する。

3 研修会等開催事業 予算総額 1,221 (2024 年度当初 2,044 今回補正後 545)

(1) 福武教育文化振興財団フォーラム及び講演会等

2023 年で 10 回の節目を迎えた「ここに生きる ここで創る」フォーラムは、2024 年度はテスト的に対象を若い世代に絞った形で実施したが、中期的な財団運営の観点から、企画自体を再検討する。

(2) and F 教室

助成団体・個人に共通する課題（運営・基盤等）を解決することに繋がる実践的なセミナーを複数回実施する。テーマや内容によって、対面形式・オンライン形式とする。参加者間の交流が図れる運営も意識する。

4 調査研究事業 予算総額 1,000 (2024 年度当初 150 今回補正後 2,050)

- ・ 引き続き公募助成事業についての振り返りの充実と今後の対応についての調査研究を進める。公益目的事業の柱となる公募助成については、福武らしい公募についての検討、表現等について審査委員・役員等へ案を提示しその在り方等、協議検討する。
- ・ 学校園（探究学習等）への継続助成に対する助成についての在り方を協議検討する。
- ・ 世情を反映したり、時代を先取りしたりする新たなプログラムを研究する。
- ・ 中長期の観点から、先進的な助成活動事例や財団運営手法を学ぶための優れた事例の調査研究や意見交換等を実施する。
- ・ ハロー!ミュージアム事業の展開方法についての調査・研究を行う。

5 主催公演事業 予算総額 0 (2024 年度 0)

2025 年度も実施せず、財団設立 40 周年事業 (2026 年度) において実施を検討したい。

[参考] この事業は、2018 年度に「新岡山のいろ・かたち」事業 (岡山から全国、世界に発信できる芸術文化の公演を行う。岡山の誇れる文化や芸術、またそれらが交流連携した新たな魅力が発信される公演機会を年に一度、Junko Fukutake Hall で提供する。) として新設したが、財源不足等のため、現在まで休止している。

6 広報事業 予算総額 10,555 (2024 年度当初 9,324 今回補正後 9,179)

(1) 一般広報 予算額 7,205 (2024 年度当初 7,254 今回補正後 7,309)

① 財団公式 Web サイト

教育文化活動助成団体の成果報告書が簡便に検索できるアーカイブを 2022 年度より運営しているが、さらなる充実と活用促進に努める。外部団体とも連携し、助成団体の活動を Web サイト上で発信し、側面的支援を充実させる。

② 財団機関誌「ふえき」

年 3 回発刊の内容充実を努める。

③ 自治体・行政等との関係性充実

福武教育文化賞の推薦、公募助成の周知などをはじめ、財団事業の認知を深めるべく、福武教育文化賞の推薦時期、公募助成公募開始時期を中心に、春・秋に巡回訪問を実施する。

(2) 瀬戸内国際芸術祭広報 予算額 3,350 (2024 年度当初 2,070 今回補正後 1,870)

瀬戸内国際芸術祭年でもあり、岡山側からの盛り上げにベネッセホールディングスと協力して、広報活動を展開する。主に岡山駅等での展開を中心とする。

5 月末の直島新美術館開館に伴い、役員はじめ財団関係者を対象とした視察ツアーを実施する。

7 周年記念事業 予算総額 5,000 (2024 年度当初 0 今回補正後 0)

2026 年度の設立財団設立 40 周年に向けての記念事業を、財団の将来展望や中期的な事業計画等を踏まえて具体的な企画検討と準備を進める。